

FAQ 19 発熱患者にはネブライザー療法を実施してもよいでしょうか？

呼吸器ウイルス疾患は主として飛沫感染により伝播し、多くのウイルスが上気道に存在している状態であればその呼気中に一定数のウイルスが含まれる。気道炎症性疾患では初発症状として発熱を生じることが多く、感冒やインフルエンザ、COVID-19の初期症状は類似しており、これらを症状のみで鑑別することは困難である¹³⁾。また、SARS-CoV-2やインフルエンザウイルスは上気道で増殖しやすい一方で^{14,15)}、発熱当初はCOVID-19やインフルエンザの迅速抗原検査が陰性であることが多い。さらに、初期には発熱を伴わず、咽頭痛や咳嗽などの急性上気道炎症状のみを主訴として来院することが少なくない。したがって、診療のスタッフを守るためにも診察時には必ず急性上気道炎症状の出現時期を確認し、感染性疾患を念頭において、ネブライザー療法の施行は慎重に検討すべきである。

なお、急性鼻副鼻腔炎の初期はウイルス感染であっても、その後に細菌感染を起こして鼻症状が遷延化する^{16,17)}。また、COVID-19、インフルエンザの呼気中のウイルス量は発症5日後には大きく減少する。したがって、発熱や咽頭痛を発症したのち数日が経過し、膿性鼻汁などの細菌性炎症を疑う場合には、ネブライザー療法の実施を検討すべきである。